

2019年度事業計画書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

○はじめに

2019年度は、定款の定めに従い例年どおりの事業を計画しております。

収入面では、主力の統計事業においては7年ぶりに「日本国勢図会」の長期統計版である「日本の100年」を刊行するため、事業収益は増加することを予想しています。特定資産の運用に関しては、低金利の環境が続くなかで、償還を迎えた債券の後継の利率が低下することにより、利息収入は減少する予定です。

支出面においては、消費税アップによる増加が見込まれますが、引続き書籍返品率の抑制に努めるなど効率的な経費使用に努め、着実な財団事業の運営に取り組んでまいります。

I. 事業計画の概要

第一生命保険の創立者である故矢野恒太（以下故人と記す）は、生命保険事業の発展に偉大な功績を残すとともに、統計の普及、公衆衛生や社会教育の向上、農業振興など各方面に多大な貢献をされました。当財団では、故人の事績を顕彰し、その思想の普及に努めるため、統計データブックの編集・刊行を中心とした「統計の普及・啓発事業」、青年農業者に対する「表彰事業」、及び大学院生や高校生を対象とした「奨学金事業」等を公益事業として実施します。また、故人に所縁のある農業団体への支援や、関連諸施設の維持管理等をその他事業として実施します。

II. 個別の事業計画

1. 統計の普及・啓発事業

(1) 統計データブックの編集・刊行

当財団の中核事業として、毎年4種類の統計書を刊行し、統計の普及・啓発を図っていますが、2019年度においては、7年ぶりに「日本国勢図会」の長期統計版である「日本の100年」を刊行します。内外の信頼できる最新の社会・経済の資料を収集し、これに基づいた統計表やグラフに解説を加え、「日本国勢図会」を創刊した故人の精神を永く伝

承することに努めます。

また、「データでみる県勢」2017年版からは、電子書籍版を通常の書籍と併せて発行し、様々な読者ニーズへの対応を図りました。2019年度も同様の取組みを継続する方針です。

① 「日本国勢図会」2019/20年版（第77版）の編集・発行（6月刊行予定）

「日本国勢図会」は、1927年に創刊以来、既に92年にわたり版暦を重ねています。国民に、わが国の現状や世界における地位について、客観的データに基づいて判断する習慣を身に付けさせたいという故人の強い思いから生まれた統計書です。

今日では故人の意図されたとおり、地理統計の定番中の定番のデータブックとして社会科担当の教職員をはじめ、学生、一般社会人から欠くことのできない参考書・教養書として教育界・実業界・官公庁等から高く評価され、広く活用されています。

② 「世界国勢図会」2019/20年版（第30版）の編集・発行（9月刊行予定）

「日本国勢図会」の国際統計版として1985年に初版を刊行しました。統計データが豊富なため学習・論文作成上の基礎資料として、また重要な案件・概念・国際機構などについての解説を付しているため、多面的に国際社会の情勢を理解できるとして、各方面から高い評価を得ています。

③ 「データでみる県勢」2020年版（第29版）の編集・発行（12月刊行予定）

「日本国勢図会」の地域統計版として1988年に初版を刊行しました。47都道府県の現状を統計的に明らかにし、都道府県毎の特徴の比較を可能にするとともに、2019年版では全国791市、東京23区および927町村（2018年3月現在）の基本データを整備しているため、各方面より実用であるとの高い評価を得ています。

④ 「日本のすがた」2020年版（第51版）の編集・発行（3月刊行予定）

「日本国勢図会」のジュニア版として1970年に初版を刊行しました。主に小学校高学年向けの社会科資料集として、統計資料に基づく総合的な内容を具備しているとの

高い評価を得ており、“小学生用の一部の国語教科書に参考図書”として紹介されています。また、単なるデータの羅列ではなく、時事問題や社会の動き、その背景についても簡潔で分かりやすい解説を加えてあるところから、一般の方々にも「世の中の動きを知るのに最適な本」として評価されています。

⑤ 「数字で見る日本の100年」改訂第7版の編集・発行（2月刊行予定）

「日本国勢図会」の長期統計版として1981年に初版を刊行し、2013年に改訂第6版を刊行していますが、既に6年が経過していることと、読者から早期刊行を希望する声が寄せられていることから、改訂第7版を刊行します。

改訂版では、前回版の内容の検討を行ったうえで、統計データを最新年次に更新するとともに、最新の国勢調査の確定値、経済センサスー活動調査（全国すべての事業所・企業対象）の確報を掲載します。

(2) 在外教育施設への統計データブック贈呈

海外在留邦人子女のうち、在外教育施設（全日制日本人学校、補習授業校および私立校）で教育を受けている小・中学生は約4万人を数えます。それら世界の在外教育施設の子女教育に不足しがちな社会科教材資料を補完するため、1986年から「日本国勢図会」・「日本のすがた」・「世界国勢図会」の3図書を寄贈し、海外子女教育活動を賛助しています。本年度においても本事業を継続します。

(3) 統計関連団体への出捐

日本国内における統計の普及・啓発を図る事業への賛助

- ① 統計の進歩や統計知識の普及に貢献した個人、団体等を顕彰する2019年度「大内賞」（主催 大内賞委員会）に賛助金を出捐します。
- ② 統計の普及と、統計の表現技術の研鑽を図るため、全国の小学生、中学生、高校生等を対象に実施される第67回統計グラフ全国コンクール（主催 公益財団法人統計情報研究開発センター）の入賞者に賞金ならびに賞品を贈呈します。

2. 表彰・奨学金事業

(1) 矢野賞

前述のとおり、故人は、わが国の農業振興に特に深い関心を寄せ、生前私財を投じて、郷土岡山県に実習を重んじた農業学校三徳塾を創立しました。三徳塾は、その後岡山県に移譲され、現在岡山県立青少年農林文化センター三徳園および岡山県農林水産総合センター森林研究所となって創立者の精神が生かされています。

当財団は、このような故人の遺志を継承し、岡山県で農業の振興に貢献した模範青年農業者を対象に、その功績を「矢野賞」として表彰してきており、今年度も本事業を継続実施します。

岡山県知事より候補者の推薦を受け、当財団にて受賞者（3名または3組以内）を決定し、矢野賞贈呈式（10月開催予定）において、各受賞者に対し、表彰状・賞牌および賞金100万円を贈ります。

(2) 岡野敬次郎博士記念奨学金

保険業法の制定や第一生命保険を設立するにあたり、多大な協力者であった故岡野敬次郎博士の遺徳を顕彰するため、1954年より奨学金制度を設けて現在に至っていますが、今年度においても本事業を継続実施します。

対象は、博士が生前教鞭を執られた東京大学と、学長を務められた中央大学の大学院学生（各3名合計6名）で、大学からの推薦を受け、理事会にて選考のうえ奨学金（各人月額5万円）を1年間交付します。

(3) 池田謙三翁記念奨学金

第一生命保険を設立するにあたり、協力し、その初志達成に尽力された故池田謙三翁の遺徳を顕彰するため、1957年に池田奨学金制度を設けて現在に至っていますが、今年度においても本事業を継続します。

対象は故池田謙三翁の出身地である兵庫県豊岡市出石町所在の兵庫県立出石高等学校2年の生徒で、学校長より推薦（5名）を受け、理事会にて選考のうえ奨学金（各人月額1万円）を2年間交付します。

3. 故人に所縁のある関連農業団体への支援事業・関連施設の維持・管理事業

(1) 「恒心会」及び「三徳園友の会」への支援（補助金の支給）

「恒心会」は、矢野賞、三徳賞、新三徳賞の受賞者を会員として組織され、会員数は現在 207 名です。「三徳園友の会」は、恒心会および三徳塾同窓恒親会の会員でかつ故人の三徳塾開設の精神を顕彰するという目的に賛同するものを会員として組織され、会員数は現在 247 名です。これら二つの団体は、その会員がそれぞれの地域における有力な農業者であり、岡山県当局と連携・後援のもと会員相互の研鑽や若手育成のための研修会を開催する等、地域農業の振興と活性化に貢献しています。

双方の会には、会からの申請に基づき、その活動経費、並びに、年に一度開催される総会及び現地研修会の費用の一部を補助します。

(2) 「三徳塾同窓恒親会」への支援（新三徳賞）

「三徳塾同窓恒親会」は、三徳塾および岡山県立三徳農業研修所の修了者を会員とした同窓会組織で、修了者累計は 1,300 余名です。

当財団では、1954 年度から 1964 年度まで「三徳賞」として、三徳塾卒業生の中から優秀な青年農業者を表彰してまいりましたが、三徳塾が岡山県立農業大学校に吸収されたことにより、1965 年度より「三徳賞」は「矢野賞」に併合されました。

しかし、塾卒業生の中で長年農業に携わり現在も優れた実績を上げている方も多数おり、三徳塾同窓恒親会を中心に岡山県当局からも「新三徳賞」設定の要望を受け、1998 年度に創設し、今年度においても本事業を継続します。表彰対象人数は 2 名以内とし、“新三徳賞選考委員会”より推薦を受け、当財団で選考の上、表彰状・記念品を贈呈します。

(3) 生誕地等、諸施設の維持管理

① 岡山県所在の故人の生家跡地および先祖墓所等の維持管理を行います。

「三徳塾同窓恒親会」並びに「上竹原町内会」に清掃管理を委託します。

② 故人及び池田謙三翁の墓所の維持管理を行います。

